

一方、交通の便利さから、ベッドタウン的色彩がみられます。西光山乾亨院満福寺は、明応年間（1492～1500年）に開かれた曹洞宗の禅寺で、古河公方足利成氏が建てたといわれています。

寺には、足利尊氏の子孫である足利成氏の墓や、応仁の乱後の京都で活躍した連歌師で、足利政氏に連歌を指導したといわれている猪苗代兼載の墓があります。



古河公方足利成氏の墓（満福寺）

尊氏ゆかりの地 日本三戒堂

栃木県下野市

下野薬師寺（旧安国寺）

下野薬師寺は、天武天皇白鳳8年（679）に皇后（後の持統天皇）の病氣平癒を願って建てられました。

天平宝字5年（761）に鑑真和上により戒壇院が建てられると、奈良の東大寺・筑紫の観世音寺と合わせて日本三戒壇といわれ、東山道足柄以東坂東十か国の僧侶になるものはすべてこの下野薬師寺で修行をし、授戒を受けなければならぬ定めになっていました。

暦応2年（1339）、足利尊氏は国ごとに安国寺を建てましたが、下野国では新たに建てることなく下野薬師寺を安国寺に改称しました。

元亀元年（1570）、小田原の城主北条氏政・氏直父子



下野薬師寺戒壇堂

が下野国に出陣し下妻の多賀谷氏の城を攻めました。その時の戦火により七堂伽藍をはじめすべての堂宇が焼失しました。

現在の境内には、在りし日の戒壇院を偲び、江戸時代に建てられた戒壇堂（六角堂）が残されています。

平成の大修理と称し、平成29年より三か年をかけて本堂・山門・戒壇堂・庫裏、それに本尊薬師如来の他、仏菩薩の修理修復を行いました。これを機に寺名を安国寺から創建当初の下野薬師寺に戻し

ました。

下野薬師寺は日本三戒壇の一つ、東戒壇が置かれた寺院です。そこで、現在、日本戒律の祖である鑑真和上の顕彰に努めています。令和元年に戒壇堂の近くに宝塔を建て、奈良唐招提寺よりいただいた鑑真和上の御廟の霊土を奉納しました。また、この事業の記念として、御廟に植えられている和上ゆかりの聖樹「瓊花」もいただき、宝塔の横に植樹しました。令和三年には、唐招提寺の国宝鑑真和上像を模して新たに尊像を制作し、戒壇堂に安置しました。

なおガイダンス施設として薬師寺歴史館が建てられ、また往時の建物の一部が復元されるなど史跡の整備が進んでいます。

行事

- 1月1日 元朝祈願法要
- 3月21日 春季彼岸会法要
- 5月4日 釈尊降誕会法要
- 8月10日 施餓鬼会法要
- 9月23日 秋季彼岸会法要